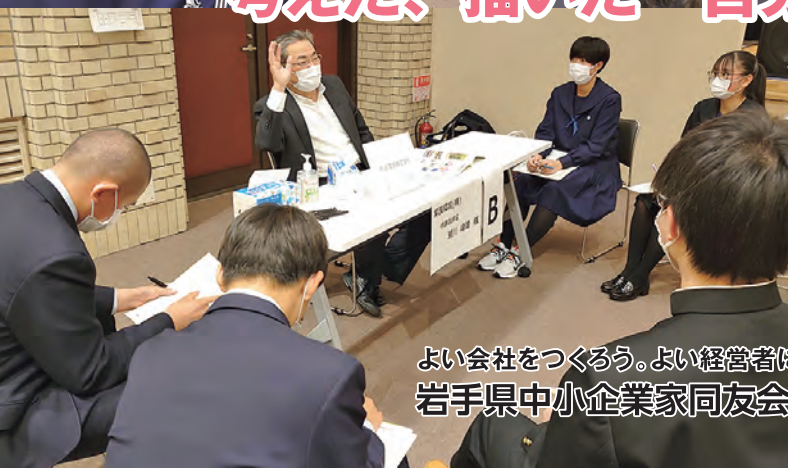




**共につくる地域の学校・高校生スキルアップ事業
考えた、描いた 自分の将来、地域の未来**



16年目を迎えた盛岡市と岩手同友会共催

高校生スキルアップ事業 考えた、描いた 自分の将来、地域の未来

3年ぶりに盛岡市内の
高校生60名を迎えて



2006年から16年続く盛岡市と岩手同友会共催の高校生スキルアップ事業が、3月8日、9日の両日、高校生60名が参加し盛岡中央公民館で開催されました。

コロナ感染症の影響で昨年、一昨年と延期になっていましたが、盛岡市の商工観光部経済企画課の担当者の方と、半年にも及ぶ入念な準備を経て、3年ぶりに実施することができました。

スキルアップ事業は市内の高校2年生に学校を通じて呼びかけ、学年が上がる前のこの時期に2日間と3年生の夏休みの2日間、合計4日間にわたり「何のために生きるのか、何のために働くのか」を経営者と一緒に考える課外授業です。当日は岩手同友会から共同求人参加企業を含め12社の経営者や幹部社員を迎え、共に未来に実現したい地域の姿を描きました。



自分の人生に向き合う 場をつくる

16年前のスタート当初は、「盛岡市立高校の3年生に、経営者の皆さんに協力していただき、採用試験へ向けての面接練習をしてほしい」と同友会に相談があり始まりました。そこで、高校の進路担当の先生と就職相談員の方、盛岡市の職員と同友会で繰り返し相談を重ね、その目的と内容を一から練って行きました。高校生の就職から3年以内の離職率が30%を超えることや、当時就職を希望する高校生の半数近くが東京や仙台など都市圏の企業を希望していることなどから、「まず高校生自身が就職よりも、自分の

人生に向き合う場をつくること」「そのために地元の企業経営者が、一人ひとりの高校生の声に耳を傾け、地域の未来とそれぞれの人生設計について一緒に考える場をつくること」を目的に開催することが決まりました。

共につくる地域の学校

事業として始まった当時は、真夏の35度を超える気温の中、冷房のない高校の校舎に共同求人委員や社員共育委員が総出で出向き4日間、汗をかきながら同友会の新入社員研修会とほぼ同様の内容で行いました。

高校を卒業して就職から2、3年の先輩社員の体験談や自分が就職したときの社長自身の想いなどを率直に話していただき、それぞれが実現したい夢を描いていきます。

A3一枚に描く人生設計書には、自分が定年するまでのプライベートと仕事に分けてタイムスケジュールを詳細に書き込んでいきます。はじめは真っ白のままだった用紙も、途中のグループ討論を経て、少しずつ埋まっていきます。なかには「10年後にはこんな商品を販売する店を自分でやりたい」など、明確な目

標を掲げる生徒もいます。

最終日には経営者一人ひとりがブースを設け、生徒が自分の人生設計と実現したい夢を話す場を設け、思いの丈をありったけ話してもらおう場をつくる

ります。話すのが得意な生徒も、なかなか一言が出ない生徒もいます。それぞれの言葉をみんなで見守り受け止めて一緒に考える時間。こうして学校と行政、そして企業の3者が次代を担う18才と共に学ぶ合う地域の学校が具現化していきました。

「あのときの社長さん ですよね」

卒業してから数年後、地元のスーパールのレジで「あのときの社長さんですよね」と声





がかかります。状況がわからずきよとんとしている、「高3年の時、汗を拭いながらの課外授業で、私たちにお話をしてくださいましたよね。その時に自分の将来を真剣に考えたことで今、地域に残って

地元の企業で働いています。」その時の様子を「いやあ経営しているこんな嬉しかったことはなかったね」とキラキラした眼差しで話す、ある設備会社の会長さんの姿に、世代を越えて膝を交えて未来を語ることの大切さをあらためて実感します。このスキルアップ事業が、学校や市の担

当者が変わっても16年間変わりになく続いてきた原点がここにあります。

自分に何ができるか

3年ぶりに開催された今回は、「私の未来をデザインしてみよう」と「地域の企業の社長さんと将来について話してみよう」をテーマに掲げました。そして目標として、①SDGsの視点から地球、世界、地域でいま何が起きているのかを知り、今の自分、そして「何のために生きるのか」「何のために働くのか」「将来の自分に何ができるか」を自分の頭（脳味噌）で考えること。②様々な人たちの知恵やかわり合いがあれば、どんな問題や課題でも解決できる可能性があることを知ること。③自分がどんなことに興味があり、将来やってみたいのかに気づき、職業選択のヒントをつかむこと（実現した未来からバックキャストで今何をすべきか考えること）を掲げ取り組みました。

問題を人ごとではなく自分ごととして

60人を4人ずつ、20チームに分け、1日目午前は、地球

環境の問題や世界で起きている紛争のこと、どうして起きているのかについて、午後は地域の人口減少や少子高齢社会の中で、いま何が課題になっているかをワークショップを通じて考えました。

「地域に起きているそれぞれの『問題』を、自分ごととして捉え行動に移す『課題』に変えよう」と、グループ討論では、頭を悩ませながらも真剣に、そして自分に何ができるか、を必死に考え出そうとしている姿が印象的でした。ブレインストーミングで自分のアイデアを模造紙に貼っていく作業は、一人では限界があります。体育館ほどある大きな会場に20チーム、60人のアイデアを参考にする中で、実現可能な発想はどんどん増えていきました。

2日目の午前は、1日目で考えた自分が気になる地域課題をどんな方法で解決するか形にしてみることをテーマに、実際にイラストを描くワークショップを行いました。「面白いけれどすごく難しい」「答えがないのが厳しい」「何にも発想が出てこない」と話していた生徒さんたちも、次第に本気になっていきます。最終的に60名全員が8コマのイラストを仕上げるこ

とができました。想いを床一面に並べた姿は圧巻でした。

高校生にも経営者にとっても世代を越えて互いに気づき合う時間

最終の2日目午後は、経営者や幹部社員の皆さんをお招きしての、それぞれのアイデアの発表会と各企業ブースを訪問しての企業説明会、個別の相談会となりました。

はじめにそれぞれの完成した8コマのイラストを、自分の言葉で発表します。経営者や幹部社員の皆さんは、高校生の話に「そのアイデアいただき！凄いいね」とか「いやー思いもつかない発想だね」などと相づちをしながら、拍手したり笑ったりというのまにか一つのチームのような雰囲気になっていきます。そしてそのまま、企業説明会に移っていききました。

生徒さんからは「大変だったけど、参加して良かった。自分のこれからのことをこんなに考えたことはなかった。」「地域の企業の社長さんたちと初めて話せて嬉しかった。」「思ったよりも気軽に話せる方ばかりだった」「私たちのことを一生懸命に考えてくれたているのが伝わってきた」な



ど、経営者の皆さんと出会えたことの喜びが伝わってきました。

また経営者の皆さんからは、「しっかりと自分の言葉で話している姿に驚いた。迎える側に課題があることに気づかされた」「若い世代に私たちからもっと近づき理解する必要がある。意思も意見もしっかり持っている若者の心を引きつけるためにこちらの努力も大いに必要と感じた」など、お互いにとって気づきの多い時間となりました。自分と向き合い自分の将来を見つめる2日間。60名の高校生の人生にとって、そして参加した皆さんにとっての大切な時間になりました。

会員による同友会発信広報 支部地区通信あつちこつち

第2回新会員ゲスト オリエンテーション

3月10日（木曜日）に岩手同友会会議室とオンラインのハイブリット開催で行われました。当日は新会員とゲストが6名参加いただき、合計14名の参加で行われました。

ミニ報告に立って戴いた(有)くらし建築工房 中村喜一氏、(有)猿子園芸 猿子祐太氏、(株)フードアトリエ 佐々木朋乃氏は、これまでの歩みを同友会への入会から会社に変化していく姿を赤裸々にお話いただき、新会員のみなならず、参加した皆さんそれぞれが、自分に置き換えて学び合えた充実した時間となりました。

新会員・ゲストの皆さんからは、「こんなに経営のことを真剣に語れる場所はなかった。早速経営指針実践塾の受講を考えてみたい」という声や、「実は後継問題で悩みがある。率直に同じ後継する立場で話ができる人がほしかった」など、早速本音の声が始め、久しぶりに熱気あふれ

るオリエンテーションとなりました。

ミニ報告の皆さんからも「あらためて自分を振りかえり、これまでの歩みを思い出した。参加し続けて、謙虚に自分と向き合い続けることが大事だと、話しながら考えた。」という話や、ベテラン会員の皆さんからも「実は私が入会した頃は…」と止めても止めても次々に出てくる尽きない話題に「同友会ってどうゆう会」か、参加者全員で再確認できた場となりました。終了後もしばらくは誰も帰



らず、コロナ禍で失われていた、こうした泥臭い学び合い、かわり合いの場を重ねていくことの大切さをあらためて感じた時間となりました。「そうそう」とわが意を得たりと共鳴し合える仲間が増えることの喜びに浸った時間となりました。

全県・盛岡支部例会

「どうすれば人がやめない
会社の実現できるか」
～労使見解～
愚直に向き合って～

中同協副会長・宮城同友会代表理事
日東イシダ(株)代表取締役会長
鍋島 孝敏氏
2月25日(金)
カガヤ町ビル4F会議室ハイブリット

鍋島会長は26歳の時に今の会社に入社しました。当時の社内は売上至上主義で数字が人格、営業部門と製造部門は天敵といった状況でした。

1996年、45歳の時社長に就任し、翌年宮城同友会で第8期の経営指針を創る会を受講してより、新社長方針として経営理念を創り社内発表をして社員から満場の拍手をもらいます。しかし、社内での経営理念は浸透しませんでした。鍋島会長は人は自分(自社)の事が一番解っていない。一人では見いだせなかった自

分たちの使命や志の発見は他人との対話の中で気づくと当時を振り返ります。

先輩経営者からの「同友会理念で経営していますか？」との問いかけから2003年幹部社員と経営指針を創りなおすことに逃げずに正面から向き合いました。毎年の経営指針を創る会への助言者として参加し続ける事は受講者に対する他の助言者の言葉が実践できていない自分への指摘に聞こえつらかった。しかし、一歩踏み出す勇気をもって同友会に参加し続け踏み越えるしかない」と鍋島会長は言います。「わが社の事業は誰の、何の役に立つ仕事か？」を社員と考え続け、理念と一緒に作ることで自分たちの理念自分事になる。

より多くの人の役に立つ企業になるためには、規模の拡大も必要で、組織のあらゆる階層での後継者づくりが必要です。事業計画、採用、社員教育の三位一体の経営実践していくうえで毎年の経営指針作成の過程が社員共育の場になっていきます。

ヒトは「その気」になった時、自ら育つのです。同友会で学び続け愚直に社員を最も信頼できるパートナーとして会社を発展し続けている体现

者の報告に多くを学んだ素晴らしい例会でした。
(文：杜陵テクノ(株) 川村武司)

県北支部岩手山麓地区例会 「岩手の蕎麦屋になるために」 ～先人の知恵と風土を 活かした土づくり～

合同会社みのり風土 代表
村上 博信氏
2月14日(月)滝沢ふるさと交流館

村上氏は農家出身ではなくもともとは会社勤めをしており、肥料の営業マンとして活動されておりましたが、取引先であった「こと京都(株)」さんから「九条ネギを岩手で栽培してみないか」とのお誘いを受けて2012年3月に一念発起し「みのり風土」を設



立されました。農業経験が無いため毎日手探りの中で試行錯誤の連続でしたが「みのり風土」と言えば岩手の「葱屋」と呼ばれる会社を目指して日々精進している会社です。

報告では、自身を含め社員ほとんどが農業未経験であるため、ベテランの先輩農家さん達と比較して自分達の経験の無さに思い悩んでおられました。が、積極的に先人である先輩農家さん達の知恵を学び、違う業種での経験を活かすことや、社員の自主性や伸びしろを尊重することで社員とともに成長する会社を目指しているとの事でした。

またユーチューブやツイッター等のソーシャルメディアを活用し、時には自身が被り物を身に着けて登場するなどして自社の取り組みを紹介したところ、ユーチューブを見た人から会社に入りたいとの問い合わせが増加したため、創業当初は従業員が二十名だったのが、現在では四十名近くに増えたとの事でした。現在計画していることは「農閑期である冬場に葱や地元の特産品を活かした食堂を建設したい」と精力的な活動をご報告して頂きました。

(文：(株)交通電機商事

金澤康成)

県南支部例会

「若者が就職したくなる会社とは」

「関への移住マッチングから見たヒント」

「関若者サポートステーション相談員

上野 栄輔氏

●2月21日(月)なのはなプラザ
第2会議室

今回はe-doyuだけでなく外部発信として、JC会員・告知メール・facebookを使って積極的に告知を行いました。特にfacebookではイベントページを作り、招待メールも発信。またデスクトップには「地域を元気にするには何が必要なのか?」よく言われるのが就労難とされている。

でも、本当に働く場所が無いのか疑問です。頑張ってい



る会社いっぱいあります。これからも輝きそうな会社は沢山あります。どの様に我々が発信すべきなのか、地方から住み着いた人間がその土地の良さを一番知っています。また、ダメな点も知っています。

確かに働き方は変わってきています。でも仕事しているのは人間です。地域で循環して街を元気にするヒントを見つけよう。皆さんで、大いに語り合いましょ!と投げかけてみました。すると多くの参加希望者が集まりました。

しかし、一関市もコロナ感染者が拡大し心配の状況に、さらに当日は大雪、高速道路はストップこれにはさすがに、参加者減るなど思ったところ、なんと当日参加のゲストもあり、40名を超える皆さんと例会が、開催出来ました。短い時間では有りましたが、グループ討論も行い予定の2時間を30分も過ぎてしまいました。終わってから、参加者が残り語り合っている状況はともうれしかったです。久しぶりに熱気ある例会が運営出来ました。あとは会員へのお誘い、アフターフォローです。

(文：(株)東北ウエノ

鈴木雅彦)

気仙支部遠野金石地区例会

「ピンチをチャンスにできる経営の実現をめざして」

こと京都(株) 宮川 光太郎氏

●2月17日(木) 小友地区センター・ハイブリット

こと京都(株)の宮川光太郎氏をオンラインで報告者としてお迎えし、ご本人の来歴や岩手とのつながりから経営に対する思いや考え方など、スライド等の資料を使わずたっぷりお話を伺いました。冒頭で松下政経塾で学んだこととお話しされた通り「他者のた



め」という考え方が一貫しており、事前に出席する地区会員のホームページや経営状況を把握して臨んで頂いていたことを後から聞き、感動すら覚えました。

報告後は、テーマを決めてのグループ討論ではなく会員から続々と出る、質問コーナーとなりました。

農業経営では「何を作るか」は重要ではなく決めた作物でどう道を切り開くかを考えることが重要」というアドバイスや、「わが社のホームページを見てどう思いましたか?この方向性はアリですか?」という迷走した質問にも的確に答えてくださいました。

それらのお話に共通していたのは「考え抜く」こと。「社会や他者のため」という経営者としての矜持(きょうじ)を強く持ち、あらゆることを考え抜いてこそ道は開けるということでした。

当地区会員には農業経営者が多く、農作業に没頭してしまつと、この「考え抜く」ことをサボりがちになることを痛感し、明日からの行動を変えられるきっかけとなるような例会となりました。

(文：(農)宮守川上流

生産組合 桶田陽子)

紫波花巻支部例会

「小さな会社」が成長する仕組みとは？」

「なぜ、仙北造園に依頼がつづくのか？」

(株)仙北造園 代表取締役

佐藤 康之氏

●2月4日(金)やはばーく・ハイブ
リット



(株)仙北造園の佐藤社長より、造園業を目指し同友会に参加した経緯と現在の状況、また将来の姿までを約1時間ほどの間で話しを頂きました。

東京農業大学卒業後より造園の修行を重ね、将来は三代で独立をと計画的に目指していました。あるきっかけで日本庭園だけでなく山野草を取り入れた、洋風な庭づくりも修行し、その後に盛岡に帰り独立をしました。

独立当初は社員数名の小所帯でしたが、将来のための経営の勉強のために同友会入会しました。その後の共同求人活動のおかげで、新卒社員も入社させることが出来てきた事とのことです。しかし、冬場の仕事が少なくなる通年雇用が難しいなかで、その社員も数年後に退社しました。

その後、同友会の求人委員長活動しながら仕事を増やす努力を重ね、気づいた社員のための福利厚生、就業規則、賃金規程などを整備してきました。

特に東日本大震災後からの園芸には、疲弊感を癒し「豊かな気持ち」のために人々に求められていると確信し、またそれは現コロナ禍で益々感じていることです。その真意での行政提案によっての公共公園も受注し始め、同時に社員雇用を増やしていきましたが、公の(受諾企業姿勢)要求の高さのため、経営感覚もある自立社員の育成が今の最大の課題と言っております。

社長自らの資質向上とそれを社員へどのように啓発するかは、指針を最大限活用しないとの結びとなるでしょう！

(文：紫波環境(株) 瀬川峰雄)

委員会通信

共同求人委員会

SNSを活用し、
就活にアプローチしよう！

3月11日(金) 共同求人委員会主催のオンライン学習会が開催されました。講師として(有)ライフアシスタンスカンパニー代表取締役千葉英男氏を迎え12名の参加でSNSの活用方法を学びました。

「拡散」を情報発信の力に

10代、20代前半いわゆるZ世代と呼ばれる若者はどんなサイトを使い情報を検索しているかというと、1位Google、2位Twitter、3位はInstagram順位で使われています。特に就職説明会においては、この2年ほどコロナ感染症の影響でオンラインを使っている説明会が増えていますが、そのためにはSNSの効果的な活用方法について、よりその性質を理解する必要があります。



す。まずつないで力を大きくしていくこと。そのために共同求人活動では、フォローとツイートしやすいツイッターを活用することにしました。そして拡散のために大切なのは定期的な情報発信を継続的に実施することです。今回を機に「ACIT」掲載の23社の紹介を手始めに、つながりをつくり拡散力をアップすることです。「会社を知る、イベントを知る」につなげていくことになりました。

企業での実践が大前提

こうした「つながり」と「拡散力」は同友会にとっても大きな魅力につながってきました。まず4月8日のオンライン合同企業説明会の発信を試み、その後岩手同友会全体のSNSを活用した情報発信に繋がっていきます。千葉氏からは「SNSは感謝と応援が重要なキーワード。各企業でも十分に活用して発信していくことで、企業の営業活動にも採用活動にも大きな効果が出てくる」と強調。専門家を迎え活用方法を学ぶことで企業が就活する学生にアプローチできる事も学びました。

ただし、「大切なのは発信する中身。経営指針の実践と働く環境づくりの実践が大前提」との確認もされました。

共同求人委員会では今後もこの学習会を生かして活発に活用していく予定です。

政策委員会

県との意見交換会開催

岩手県中小企業振興基本計画の次期(第3期)へ向けて、商工労働観光部経営支援課と岩手同友会の意見交換会が開催されました。県からは阿部課長はじめ10名の職員の方々がカガヤ肴町ビルの会議室を訪れ、平野政策委員長、田村・鈴木・吉田代表理事、瀬川広報委員長、佐藤農業食料生産部会長、菊田事務局長と率直な現状の共有と今後の中小企業政策への展望について話し合われました。今後も継続して定期的にこうした場を持つていくことを確認しました。



特別報告

「今、中小企業に期待されていること」②

「社員とともに社会課題にこたえられる企業に」

(株)ヒューマンライフ 代表取締役 中山 英敬氏

(中小企業家同友会全国協議会 幹事長)

昨年11月に開催された第19

回経営研究会の基調講演から3月号に引き続き、中小企業家同友会全国協議会幹事長の中山英敬氏の報告内容をご紹介します。

今月は中山氏の生まれ故郷である福岡県田川市での中小企業振興基本条例の具体的な地域実践と、世界的な視野に立った社会課題に込める中小企業運動についてご紹介します。



地域内経済循環、持続可能な地域を自分たちでつくる

私の生まれ故郷、福岡県田川市の実践事例を紹介します。

2015年中小企業振興基本条例が制定されましたが、本条例はできてから地域づくりが始まります。従って同友会の会員企業が多く関わらないと生きてきません。田川市に支部を作ることと、田川市条例制定準備を同時にすすめ、毎月活動を繰り返しながら条例を生かすための田川市産業振興会議を設置しました。その振興会議の会長に私自身が就任し、年に2・3回の会議を必要に応じて開催しています。

しかし実行部隊が必要だということと、この産業振興会議の下部組織として実務責任者会議を設置しました。2017年4月からこの会議を毎月開催し、同時に4月同友会は田川支部も設立しました。設立総会では出席された

田川市長から激励をいただき、スタートしました。毎月開催の中では、田川市の事業者の実態調査、全事業者対象に悉皆(しっかい)調査をしました。

調査を一年かけ、その後専門機関にデータを渡し分析、2018年に調査報告会を開催しました。そこで地元の課題を整理して、一年後に課題解決に向けての方策とビジョンを掲げ田川市長にお渡ししました。「中小企業が元気に活躍するまち田川」。ポイントは地域内経済循環、持続可能な地域を自分たちでつくるというのが特徴です。

調査から見えてきた特徴と課題

事業形態では個人事業所が43・3%、うち5人以下は70%、要するに小規模事業者で成り立っているということとです。また社員規模と売り上げの関係は、社員数が多い方が採算DIがいいという結果も見えました。

また事業計画の有無と経営成績については、計画や経営指針があるところは事業成績が良好で、また業績がいいところは人材育成にも力を入れているということです。また事業所の強みは、中小企業と

いえども、高品質、技術力が群を抜き、そこに自信を持っています。しかし売り上げに結びついていないという課題も見え、事業所の強みが生かされていません。

課題のダントツは人材の確保と育成ですが、個人事業所、小規模ほど高く、販路拡大に関しては特に戦略も、新規事業も考えていないということです。創意工夫や市場分析、マーケティングなどを勉強する必要もあると思います。

事業承継問題では、殆どの事業所が現状維持と未定を選んでいます。社員3人未満のところは、廃業や未定不明が併せて72・3%と衝撃的でした。これらの課題を整理し、ビジョンを掲げ、ビジョン実現のための4つの方針を策定しました。

その4つの方針とは、①中小企業者が経営の基本を学ぶ場の開設、特に経営指針を中心とした学ぶ場づくり、②地域の課題を解決するソーシャルビジネスの推進、エネルギーシフトやSDGs、③生活者と事業者をつなぐ地域プラットフォームの構築、④地域で若者を育て地域に若者を残す活動です。

高校生たちによる経営指針発表会

「この地域に若者を残す。」私たちは新しいキャリア教育と呼んでいます。田川市には4つの県立高校があります。そのうち3つの高校に実態調査で見えてきた課題を整理し、高校生たちに地域の課題として「あなたたちだったらこの課題にどんな事業を起こし、解決につなげていくか」を生徒会中心に投げかけました。

同友会の若手会員たちが毎週学校に向き、放課後授業をしました。経営指針、エネルギーシフトの重要性などを教えると高校生は本心に飲み込みが早く、特にエネルギーシフトなどは私たちよりも早く理解していききました。仮想会社の経営指針をつくり、調査報告会の中でイベントとして、各校から発表してもらいました。

経営理念は「私たちは田川の実顔をつくり続けます」

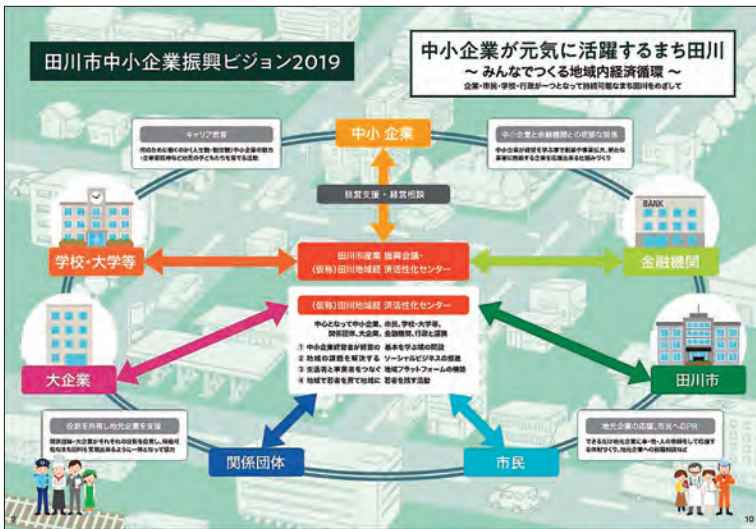
1つ目の西田川高校。テーマは「田川を魅力あるまちに」(株)エポリーション。理念は「頑張る中小企業を応援、地域に魅力を発信、環境変化に対応」。田川で活躍する優秀

な人材を育てるための学校を建てる。田川の魅力を発掘し田川ブランドを確立する。田川の話題を世界に発信するインターネットテレビ局を開設する。そして「田川から世界へ世界から田川へ」という方針発表でした。

2つ目の東鷹高校は「新産業創設」(株)SPファーム。理念は「人々に感謝される企業、前進する魅力ある企業、夢のある企業」。方針として恵まれた自然環境や休耕地を活用し、農業改革(未来型農業)。

AIやドローンなど、最先端技術を駆使。太陽光やバイオマスでエネルギーの自給自足。環境にやさしく、安全安心な食材をスピーディーに届けます。でした。

3つ目の田川科学技術高校は「エネルギーシフト」(株)スマイルメーカー。彼等たちは田川市の住民が使っている電気料金を算出し、一年間これだけの電気料金が田川から外に出ていくという結果から、足元の資源を使って電気を作ればお金が地域で循環するとい



いう話でした。理念は「私たちは田川の笑顔をつくり続けます」。地産地消で金銭の流れを作り、田川からお金の流失を減らしお金が回るしくみ。地球にやさしいクリーンなエネルギーで地域循環を。足元の色々な資源を活用しエネルギーで他地域から入ってきたお金で子どもたちの無料施設、食堂や塾などを建設しました。という発表でした。

大学と協業する新しいキャリア教育

県立大学とは、ゼミでの社会調査実習と実務責任者会議との協業に取り組みました。事業所の実態調査の課題を整理した上で、2段階目の調査として大学と一緒に生活者の実態調査、生活者の困りごと解決のために事業につなげる仕組みづくりを考えます。

これは方針の「地域の課題を解決するソーシャルビジネス」につながっています。また生活者の困りごとを整理し、田川市の事業者につなげる仕組みを考える。これは「生活者と事業者をつなぐプラットフォームの基盤づくり」につながっています。

以上のようにキャリア教育も積極的に条例に基づいた方針に沿ってつなげています。ある高校から、仮想会社ではなくゼミ生たちが発表した会社を実現するため、卒業生たちも一緒に巻き込み、取り組んでほしいと要望がありました。またコロナ禍の中で実務責任者会議は中止せざるをえませんが、積極的な委員の呼びかけでこの会議はいかなる時も実施しよう、現在ではZoomも使いながら開催する柔軟な対応ができる

ようになっていきます。また、産業振興会議から要請すれば市長との面談も可能になり、そこで新たな課題も見えれば、しっかりと諮問機関として提起するという流れも出てきています。

世界規模の社会課題

このコロナ禍の中で隠れていた社会課題がどんどん浮彫になってきています。

今の時代企業に求められていることは、この社会課題のための事業を考えるということとはもはやCSRで、企業の社会的責任という位置づけになっていると思います。

世界規模の共通した社会課題はSDGsです。今や殆どの大企業がSDGsを掲げています。最近では中学、高校と学校教育や、入試問題にも取り入れているところもあるようです。大企業を中心にSDGsを掲げてPRはしていますが、果たして取り組んでいるかどうかについては少し疑問に感じるところもあります。

中小企業はこのSDGsについて世界的大きな規模で社会課題についてどう取り組むのか。2015年に国連で採択されたSDGsは2001年から2015年までのミレニアム

開発目標MDGsから繋がっています。このMDGsの教訓から、社会課題、貧困の問題、ジェンダー、環境などの大きな問題は発展途上国だけの問題ではない、すべての国が取り組む課題であるということがわかったことです。

また、MDGsは国連で採択し国に働きかけていました。しかし、なかなか世界中に広がらず、政府の力だけでは限界があり、世界中に広めるためには民間の力と影響力が非常に大きいということです。

国民に影響のある民間企業、全雇用の約7割を支えているのは、中小企業です。だから国連でも中小企業が重要だということと6月に中小企業の日を設置しました。また日本においても中小企業基本法が設定された7月20日を中小企業の日として重要性を確認し、7月を推進月間として取り組んでいます。

雇用の7割を支える私たちの中小企業が社会課題に向けて先頭に立つという考え方が大事だと思います。SDGsの前文を読むと、まず最初に「われわれの世界を変革する」という言葉が打ち出されています。ここにいる皆さんが当事者であり、主体者で

ある。だからSDGsの理念、「誰一人として取り残さない」という素晴らしい考えに至っています。

コロナ禍で深刻化する日本の社会問題

そこでコロナで深刻化する日本の社会問題を具体的に考えてみると、この日本での大きな課題は2つあると考えます。

その共通課題の1つ目は格差の広がりです。コロナは弱者ほどその影響が大きく出ています。特に非正規雇用です。大量の雇止め、解雇、そして特に女性や若者、シングルマザーが社員にならなくてもなかなか社員にならず、非正規雇用のため雇止めで生活がで



福岡県田川市 煙突のある風景

きない、子供に食事を与えることができないなどというような状況が増えていきます。

SDGsの一番目には「貧困をなくそう」です。SDGsを大々的に取り組んでいるとPRしている大企業は非正規雇用を平気で雇止めをして、SDGsに取り組んでいるといえるのでしょうか。

どんな難局においても雇用を守る

私たちは「どのような難局においても雇用を守る、一社もつぶさない」という事を声掛け合い、励まし合いながら雇用を守っています。この雇用を守ることの重要性を改めて皆と共有しておきたいと思っています。これ以上、貧困層を増やさないということもあります。

もう1つは解雇してしまうと回復が難しくなります。今、福岡の飲食店でも緊急事態のコロナ禍が長引いて、社員を抱えておれず解雇せざるをえない企業もたくさんあります。しかし、感染が落ち着いてようやく回復に向かえるという時に、予約が殺到しても従業員がいらないのです。募集しても集まらない。やはりこの雇用を守る重要性を改めて

再確認しておきたいものです。

エネルギーシフトの取り組みは共通課題

2つ目の共通課題はカーボンニュートラルです。菅前総理が2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを発表しました。地域内での脱炭素化の取り組みが必要で、全国各地でエネルギーシフトの取り組みが求められていくことです。

このエネルギーシフトの取り組みは日本の大きな世界と共通する社会課題についての取り組みであるということだと思っています。

企業づくり・地域づくり・同友会づくりの一体とした取り組み

コロナ禍で地域の疲弊は深刻化しています。地域は人々が暮らす場で、中小企業が事業を営む場でもあります。地域が疲弊するということは、中小企業にとっても重要な経営課題であるということです。

地域の課題を整理し、その解決の可能性をさぐり、自社の商品やサービスで解決になるのであれば、ソーシャルビジネスとして積極的につながる事ができます。また、地域ぐるみで考えるのであれば、

自社だけでは解決できなくても連携によりその可能性は見えてきます。地域の課題を地域ぐるみで取り組み、共に一緒に取り組む仲間を増やすことです。同友会の会員だけでは足りません。企業づくり、地域づくり、同友会づくりを一体として取り組むことの重要性を感じます。

人間らしさの復興

コロナ禍が中小企業や地域への影響が長期化している中、コロナ禍も自然災害。生物災害でありウィルス災害でもあります。災害の時代だから防災とBCP、事業継続計画は必須です。長期化して疲弊した地域をいかに復興していくか。この復興とは何かを本当に考えさせられました。復興とは元に戻すことでしょいか。元に戻るのを待っている、もう元には戻りません。人間らしさの復興ということが大切です。復興とはこれからの時代に通用する人間らしく生きるための、新しい基盤を作ることです。

地域の防災も同じです。これからの時代に通用する新しい基盤はどうやったらできるのか。常日頃の生活や商い、生活に必要なものを買う、売

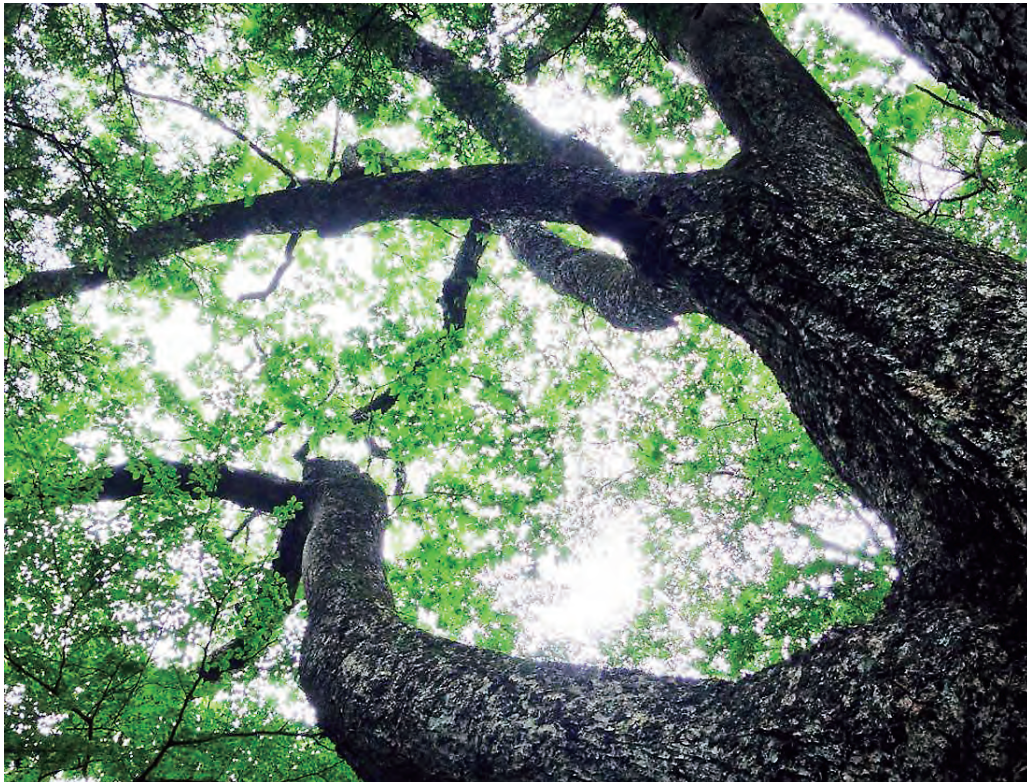
る。それを通して、人と人のよい関係を作っていくことです。

私たちは過去、未曾有の経験からいち早く、持続可能な社会を掲げました。これはSDGsから掲げたのではありません、これが採択される前からヨーロッパを視察し、エネルギーシフトという新しい時代の価値観を学び、実践運動を提起し続けています。

誇りを持ち先頭に立つ中小企業

私たちが暮らす地域の人も土地も、大切な資産であり、財産です。実はそこを照らす太陽の光もそこを吹く風も私たちの大切な財産でもあり、資源であるということです。

私たちの足元には恵まれたたくさん資源が眠っているのです。エネルギーシフトを学習し新しい時代に挑戦しましょう。また地域を支える中小企業として地域のすべての中小企業がBCPを学び取引先や関係者に広めること。そういうことを避けて通れない時代になりました。それができるのは、同友会であり中小企業の経営者だと思っています。誇りをもってこの運動の先頭に立っていただきたいと思っています。



シリーズコラム 46 ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

広葉樹は雑木ではない

日本で林業と言えばスギ・ヒノキ(北海道ではカラマツとトドマツ)。日本の林業界は、とりわけ戦後、産学官ともに、針葉樹に極度に偏重し、日本の豊かな自然環境が育む、多様な広葉樹を軽視、もしくは対象外として来ました。多様な広葉樹類を一括りにする「雑木」という敬意のない呼び方は、そのことを象徴しています。

広葉樹はしかし、洪水や地滑り防止にとっても大切で、スギやヒノキが植えてある山でも、昔の人たちは、尾根筋や谷筋に広葉樹を残していました。広葉樹の落葉は土を豊かにし、土の保水能力を高めます。

多様な広葉樹は、共生する多様な動植物種や微生物など

をもたらします。里山は生物多様性の宝庫です。

春先の瑞々しい新緑、秋の多彩な紅葉、落葉後の冬の寂寥感と地面に刺す光など、季節ごとに変化する美があります。

私たちの国土を守り、私たちの生活に潤いを与える、大切な存在です。

また広葉樹の原木は、焚き火や暖炉の燃料としてだけでなく、家具や楽器、工芸品やおもちゃなどとしても活用でき、人々に魅力的な職を与え、人々の心を持続的に温めます。

コロナ危機が始まってから2年間続いているオンラインセミナーですが、3年目に突入したこの春、4月半ばから5月末にかけて、12名の多彩なゲスト講師を招いて、「広葉樹は雑木ではない」というタイトルで、シリーズ企画を立てました。日本の多様で個性ある広葉樹に光を当て、「雑木」という不名誉な呼称から解放することを試みます。

森づくりから、伐採、加工、流通、モノづくり、手工業、レジャー、ハンティング、教

育に至るまで、第一線で活躍されている多彩な講師陣が、科学的な知見から経験論まで、実務・実用的な話から哲学・人生論まで、皆さんの意識の中に、多彩な未来の明かりを灯します。

岩手の九戸村の広葉樹の森で、山と一体になった施業と木材利用を実践されている夏井辰徳さんにも登場してもらいます。

セミナーの詳しい案内はこちらです。

↑
<https://sustainable-wald.netix.com>

よろしければ、お気軽にご参加ください。みなさんと生の交流ができるまで、もう少しばかり時間がかかりそうです。緊迫した、重く、心を痛めるヨーロッパの情勢ですが、春はもうすぐそこまで来ています。生命の息吹が聞こえています。希望を持って、自分がやれることを、淡々とやって行きたいと思います。

新 会 員 紹 介

2021年度後半もたくさん
の新しい仲間が
同友会に入会しました!!

支部地区	盛岡支部
氏 名	中村 恵美
企 業 名	(株)ポラリス
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市大新町 20-54
T E L	019-601-7096
F A X	019-601-7097
事業概要	住宅型有料老人ホーム、訪問介護ステーション、居宅介護支援事業



支部地区	盛岡支部
氏 名	渡辺 貴寿
企 業 名	ジブラルタ生命 保険(株)盛岡支社
役 職 名	ライフプラン・ コンサルタント
住 所	盛岡市上堂 2-2-35
T E L	090-8927-3124
事業概要	生命保険業



支部地区	気仙支部
氏 名	山口 秀樹
企 業 名	経営コンサルタント
役 職 名	経営コンサルタント
住 所	大船渡市三陸町綾里 字中曽根 13-5
T E L	090-7931-9950
事業概要	経営コンサルタント業



支部地区	盛岡支部
氏 名	工藤 尚
企 業 名	(株)盛高商店
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市羽場 14 地割 8-4
T E L	070-6950-8771
事業概要	鋳鋼品の買取、販売



支部地区	県北支部 岩手山麓地区
氏 名	高橋 真樹
企 業 名	(株)のびあ
役 職 名	代表取締役
住 所	滝沢市鵜飼鰐森 2-71
T E L	019-681-1919
F A X	019-681-1195
事業概要	女性だけの企画と講師派遣、PR、女性 営業育成セミナー、コンサル、電子書籍 出版代行、広告業務一般



支部地区	盛岡支部
氏 名	中村 徹
企 業 名	(株)岩手ファーム
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市下田 字生出 731-7
T E L	019-683-1920
F A X	019-683-1740
事業概要	鶏卵の生産と製造販売、醗酵鶏糞肥料の 製造販売



支部地区	県北支部 岩手山麓地区
氏 名	櫻田 大河
企 業 名	さくらだファーム
役 職 名	代表
住 所	岩手郡雫石町西根 下駒木野 18
T E L	019-693-2903
F A X	019-693-2903
事業概要	菌床椎茸、稲作、和牛繁殖、菌床販売



支部地区	紫波花巻支部
氏 名	藤田 悠
企 業 名	(株)シオン
役 職 名	取締役
住 所	矢巾町流通センター 南 3-8-1
T E L	019-677-7060
F A X	019-637-3190
事業概要	自然素材を活用した、自然塗料、高機能 塗料、天然接着剤（木部用）を製造・販 売



支部地区	紫波花巻支部
氏 名	阿部 敏哉
企 業 名	しわナーシング ホーム虹(株)
役 職 名	代表取締役
住 所	紫波郡紫波町北日詰 字大日堂 21
T E L	019-613-3117
F A X	019-613-3118
事業概要	住宅型有料老人ホーム、訪問介護、デイ サービス



新会員募集!

★仲間の輪を広げましょう★

皆様のお知り合いの経営者「この方にぜひ
同友会の入会をオススメしたい」という方が
いらっしゃいましたら、ご紹介ください!お待
ちしております。

素心知困

気仙支部の総会でお迎えする北海道同友会代表理事の曾根一氏（株）ネクサス会長。毎週帯広地域の企業を訪問し続けてきました。その数は1000社を超えます。

▼訪問先で「後継者がいないから会社を閉じる」と聞くと隣の同業者に掛け合せて、引き受け先と一緒に探します。▼「実は私珈琲店とたいやき屋さんの社長もやっているんです。」建設会社の会長でありながら、時には自分が経験のない業種の引き受けも。「地域から一つの会社がなくなることとは、地域そのものがなくなること。それだけ中小企業一社一社が本当に大切なんだということです。」▼気仙支部では大震災前、毎日のように企業訪問をしていました。「このままでは地域がなくなると。」そんな危機感からでした。この11年、県内の訪問ができない日々が続いてきました。▼曾根さんは話します。「なぜ歩くのですか。とよく聞かれます。一言で言うとうと地域を残すんだ、という思いだけです。」▼震災前と何ら地域の課題は変わっていません。地域そのものが存続し発展し続けるために。私たちが奮起する時期に来ています。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご利用下さい。www.iwate-doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 光合成 CO₂ エネルギー 肥料 BDFの製造・販売 BDF燃料 畜産物 食用油 畜産物

紫波環境株式会社

岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

注文すると「明日」来る。
オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 平金商店
アスクルエージェント TEL:019-624-2121

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com/
/mobile

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス/生活介護/訪問介護/住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス/相談支援事業所/訪問看護/就労継続支援B型

人と自然にやさしい環境を創り地域型企業として貢献します。

水まわりのリサイクル
浄化槽
廃棄物のリサイクル
北上市農産物

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

オリジナルラベルワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 紫波
自園自産ワイン 岩手県産ぶどう100%

社名ロゴ写真OK 包装のし無料 12本以上作成無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自産ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL0191-21-4531
テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

物を大切に環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ **DokiDoki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

DOYU
I W A T E
同友いわて
2022 Vol.159

発行/岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒0200878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ肴町ビル3F
TEL019-626-4477 FAX019-626-1644
Mail: info@iwate-doyu.jp